

## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課

担当課長名：東川 直正

事業名	一般国道208号 <small>ありあけかいえんがんどろ</small> 有明海沿岸道路（大牟田～大川） <small>おおむ た おおかわ</small>			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：福岡県大牟田市新港町 至：福岡県大川市大野島			延長	27.5km		
事業概要	有明海沿岸道路（大牟田～大川）は、陸海空の広域交通ネットワークを形成し、地域間の連携・交流を促進するとともに、並行する国道等の混雑緩和・安全性を向上する重要な幹線道路である。						
S63年度事業化	H10年度都市計画決定 (H19年度変更)		H2年度用地着手		H12年度工事着手		
全体事業費	約2,555億円	事業進捗率 (平成30年3月末時点)	約77%	供用済延長	23.8km		
計画交通量	21,900～46,100台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)  1.8  (残事業)  5.0	総費用 (残事業)/(事業全体)  463/3,483億円 事業費：433/3,340億円 維持管理費：30/144億円	総便益 (残事業)/(事業全体)  2,329/6,428億円 走行時間短縮便益：1,967/5,418億円 走行経費減少便益：203/608億円 交通事故減少便益：158/402億円	基準年  平成30年			
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.7～1.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.8～1.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.8～1.9（事業期間±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=4.5～5.5（交通量 ±10%） 事業費：B/C=4.6～5.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.6～5.2（事業期間±20%）</p>						
事業の効果等	<p>①広域交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大牟田市～鹿島市の所要時間が短縮。沿岸8都市間の連携・交流促進、高速道路や新幹線・港・空港といった広域拠点とのアクセス性改善など、交流圏の拡大や物流の効率化などが期待される。</li> </ul> <p>②沿道立地の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空港や港湾といった広域交通拠点へのアクセス性が改善されることで沿道の利便性の向上が期待される。</li> </ul> <p>③交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>並行する国道208号から有明海沿岸道路への交通転換によって交通混雑の緩和や旅行速度の向上が期待される。</li> </ul> <p>④交通安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>並行する国道208号から有明海沿岸道路への交通転換によって、死傷事故件数の低下など安全性の向上が期待される。</li> </ul> <p>⑤生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO<sub>2</sub>, NO<sub>2</sub>, SPM削減）</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見	<p>大牟田市をはじめとする4市で構成される①有明海沿岸道路建設促進福岡県成会（会長：大牟田市長）、有明海沿岸道路沿線市町村で構成される②九州中部商工連合会（会長：大牟田商工会議所）により早期整備の要望を受けている。（①平成30年8月、②平成30年9月）</p>						
県の意見	<p>（福岡県）</p> <p>有明海沿岸道路は広域的な連携を担う地域高規格道路である。本道路の整備は、県南地域の発展に大きな弾みをつけ、更には県全体の経済的な発展に寄与することが期待される。</p> <p>従って、「対応方針（原案）」案のとおり事業を継続すべきと考える。</p> <p>今回、架設工法の見直しで、事業費が増となっており、今後はコスト削減に努めていただきたい。</p> <p>なお、本事業（4車線）が早期に完了するよう引き続き事業の推進をお願いしたい。</p>						

(熊本県)

今回意見照会のありました一般国道208号有明海沿岸道路(大牟田~大川)に関する国の「対応方針(原案)」案については、異存ありません。

なお、有明海沿岸道路(大牟田~大川)から連続する有明海沿岸道路(Ⅱ期)は、有明海沿岸部の主要都市や拠点を連絡する地域高規格道路であり、九州自動車道などの高速道路網を補完し、一体となってネットワークを形成する自動車専用道路です。そのため、県としては従来から全線の国直轄による整備をお願いしているところです。

現在事業中の三池港IC連絡路の整備促進と併せて、長洲町までの区間につきましても、国直轄により遅滞なく整備していただきますよう特段の御配慮をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は、減少傾向であるが一世帯あたりの自動車保有台数は、福岡県、九州全体に比べ多く、自動車交通への依存度は高い。国道208号現道の交通量は横這いであり、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和63年度に事業化、用地進捗率約96%、事業進捗率約77%(平成30年3月末時点)

平成19年度	大牟田IC~高田IC間	延長9.8km(自専部2/4)	開通
	柳川西IC~大川東IC間	延長2.4km(自専部2/4)	開通
平成20年度	高田IC~大和南IC間	延長2.0km(自専部2/4)	開通
平成23年度	三池港IC~大牟田IC間	延長1.9km(自専部2/4)	開通
平成24年度	大和南IC~徳益IC間	延長3.2km(自専部2/4)	開通
平成29年度	徳益IC~柳川西IC間	延長4.5km(自専部2/4)	開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成32年度: 大川東IC~大野島IC間 延長3.7km(自専部2/4) 開通予定

施設の構造や工法の変更等

架設工法の見直し、他事業流用土の利活用

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。